

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	光明第七こども園
活動日時	2025.10 24
クラス（年齢）	心組（2歳児）
年間テーマ	自然

1. 活動テーマ

《テーマ》

みんなのもりで遊ぼう！

《テーマの設定理由》

園の自然環境である「みんなのもり」に出かけ、木の実や落ち葉、小枝、土などの自然物に触れながら、見る・触る・聞くなど五感を使って自然を感じる体験を大切にする。身近な自然に繰り返し関わる中で、子ども自身が「なんだろう」「やってみたい」と感じる気持ちを育み、自分なりに試したり確かめたりする経験につなげていく。
また、自然の中での発見や面白さを保育者や友達と共有することで、言葉や身振りを通したやり取りを生み出し、共感や関わりを広げていくことをねらいとする。さらに、自然環境の中で安心して体を動かす経験を通して、探索する楽しさや自然への親しみを育み、身近な自然を大切に思う気持ちの芽生えにつなげていく。

2. 活動スケジュール

2歳児クラスの主活動として

3. 探求活動の実践

《活動の内容》（活動のために準備した素材や道具、環境の設定）

みんなのもりの自然物

《活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関り》

園の裏山である「みんなのもり」に出かけて活動を行った。森に入ると、子どもたちは地面に落ちているどんぐりや小枝、葉っぱなどに興味を示し、拾ったり触ったりしながら自然物に親しんでいた。

ある子が地面に落ちている木の実を見つけ、「みて、あった！」と嬉しそうに保育者に見せる姿があった。保育者が「ほんとだね、どこに落ちていたの？」と声をかけると、子どもは周りを見渡しながら同じような木の実を探し始め、近くの友達にも「ここにもあるよ」と知らせていた。すると他の子どもたちも集まり、自然と木の実探しが始まっていった。



森に到着！！🌿



愛組さんと手を繋いで坂を登って～



黒い実！



赤い実や～



森でしかできない遊びがたくさん🌿



枯葉にどんぐり！🌿



体もいっぱい動かしました！！

4. 振り返り

《振り返りにより得た保育者の気づき》

日頃から自然に触れられる環境ではあるが、改めて森の中で過ごす時間をつくることで、子どもたちが自分から自然物に関わり、遊びを見つけていく姿が多く見られた。特に、木の実を見つけたことをきっかけに友達へ知らせたり、一緒に探したりする姿から、自然が子ども同士の関わりを生み出すきっかけにもなっていることを感じた。

また、落ち葉の音や木の実が転がる様子など、身近な自然の小さな変化や現象にも興味を示していた。保育者がその発見に共感し言葉を添えることで、子どもたちはさらに試したり繰り返したりして遊びを深めていた。

自然の中では、決まった遊具がなくても子ども自身が「面白いこと」を見つけていく力があることを改めて感じた。今後も「みんなのもり」の環境を活かし、子どもたちの発見や気づきを大切に自然体験を積み重ねていきたい。